

落語の小道具

落語は、たった一人で座ったまま、巧みなしゃべりや身振り手振り、表情で何役も演じわける一人芸です。高座で落語家が使用する手ぬぐいや扇子といった小道具は、物語の状況をわかりやすくしたり、人物の演じ分けなどに効果的に使われます。お客様が物語の情景や人物像を頭の中で想像しながら楽しんでもらうための技が、落語にはたくさん散りばめられています。

月亭太遊師匠に
実演いただきました！

扇子



スゥー



キセル（煙管）

ふうー
ふうー



簀

ぐび ぐび



盃

手ぬぐい



ふむ



手紙

ふむ

パシャ



スマホ

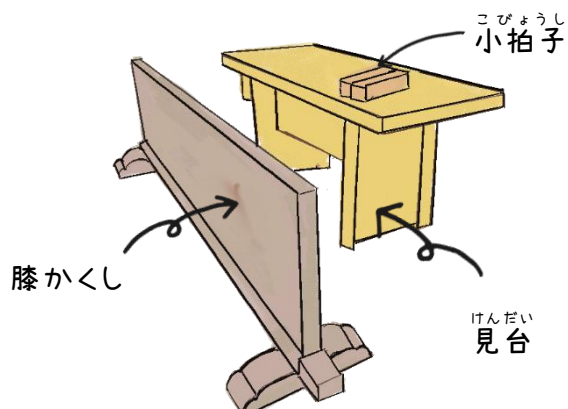
100円
まけて〜



財布

上方落語特有の小道具

演じる噺によって使用しないこともありますが、上方落語だけに使われる道具があります！



「見台」は、落語家の前に置く小さな机のこと。「膝かくし」は見台の前に立てるついたてで、落語家の着物の裾の乱れを隠します。見台の上には、手の平におさまるほど小さい「小拍子」といわれる拍子木が2本1組で置いてあり、場面が切り替わる時や、その場の雰囲気を変えるときなどに、見台に打ちつけて音を鳴らし使用します。これら3つの小道具を使用するのは、上方落語のルーツ、辻噺（大道芸）の名残で、大きな身振り手振りや音で通行人を呼び止めていたからとされています。江戸落語で使われないのは、江戸落語がお座敷芸から発展したためです。